

「第2次加須市渡良瀬遊水地利活用推進計画」策定のポイント

ポイント1

○計画策定の前提条件の確認・整理

1) 計画策定の考え方

- ① これまでの「渡良瀬遊水地利活用推進計画」(第1次計画)の取組・実績等を踏まえつつ、渡良瀬遊水地を活かした北川辺地域のさらなる活性化を図るため、第1次計画の見直しも含めた第2次計画を策定
- ② 計画の実効性を考慮し計画期間を5年間(令和8年度～12年度)と設定、対象地を「渡良瀬遊水地の加須市該当エリア、北川辺地域及びその周辺」と設定(認知度を考慮し“かぞわたらせ”と呼称)

2) 基本理念の踏襲

- ① ラムサール条約の理念及び第1次計画の基本理念である湿地の「保全・再生」「賢明な利用(ワイスユース)」「交流・学習」の推進の考え方を踏襲

3) 遊水地の利活用に係る基本的な条件・社会情勢の変化について内容整理

- ① 基本的な条件(4項目)、社会情勢の変化(7項目)を整理

ポイント2

○計画策定の戦略を踏まえた計画の方針の設定

1) 計画策定の戦略の設定

- ① 計画策定に当たっての6つの課題から計画策定の戦略を設定
▶“市民とともに将来像を描き、実現していくための計画”を目指す(だれにも身近で分かりやすく親しみを感じてもらえる計画に)

2) 計画の方針(基本コンセプト・5つの基本方針)の設定

- ① 上記の計画策定の戦略を踏まえ基本コンセプトを設定
▶計画の将来像となる基本コンセプトを LOHAS Station かぞわたらせ と設定
- ② 将来像の実現に向け、各事業・取組の分野を考慮した5つの基本方針(取組の柱)を設定
- ③ 基本方針ごとに目的と手段の関係が分かりやすいよう個別方針・個別施策を設定

第2次加須市渡良瀬遊水地利活用推進計画 骨子案について

令和7年12月18日

目次

1	はじめに	p.2
2	渡良瀬遊水地を取り巻く状況	p.5
3	計画策定の前提条件・6つの課題の整理	p.15
4	計画策定の3つの戦略	p.20
5	計画の方針	p.21

1 はじめに

1-1 背景と策定の目的

平成 24 年 7 月に渡良瀬遊水地がラムサール条約の登録湿地になったことを機に、条約の目的の一つである「ワיזユース(賢明な利用)」を進めるため、本市では平成 27 年 3 月に「加須市渡良瀬遊水地利活用推進計画」(以下、「第1次計画」と表記)を策定しました。その後、変化する実情に即するため、平成 31 年に一部改訂を行いました。以降、策定から 10 年が経過し、コロナ禍などにより社会情勢が大きく変化するとともに、市民の自然環境との共生や地域の活性化に対する意識の高まりに伴い、遊水地の環境保全をはじめ、「柳生駅周辺の活性化」や「渡良瀬遊水地の更なる利活用の推進」に関する期待の声も大きくなっています。こうした状況や、これまでの第1次計画の取組・実績とそれに伴う課題等を踏まえ、渡良瀬遊水地のワיזユースを継続的に推進することを基本としつつ、渡良瀬遊水地を活かした北川辺地域のさらなる活性化を図るため、第1次計画のこれまでの見直しを含めた「第2次加須市渡良瀬遊水地利活用推進計画」の策定を行うものです。

ラムサール条約とは？

ラムサール条約は 1971(昭和 46)年 2 月 2 日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。採択の地にちなみ、一般に「ラムサール条約」と呼ばれています。

湿地の「保全(・再生)」と「ワיזユース(賢明な利用)」、これらを促進する「交流、学習(CEPA)」。これら 3 つが条約の基盤となる考え方です。

ワיזユースとは？

ラムサール条約では、地域の人々の生業や生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用(Wise Use:ワיזユース)」を提唱しています。「賢明な利用」とは、湿地の生態系を維持しつつそこから得られる恵みを持続的に活用することです。

注)本計画の文章内での表記について

●渡良瀬遊水地利活用推進計画関連

：「渡良瀬遊水地利活用推進計画(平成 27 年 3 月策定、平成 31 年一部改訂)」については、「第1次計画」と表記します。

：「第2次加須市渡良瀬遊水地利活用推進計画」については、文脈に応じて「第2次計画」又は「本計画」と表記します。

●渡良瀬遊水地関連

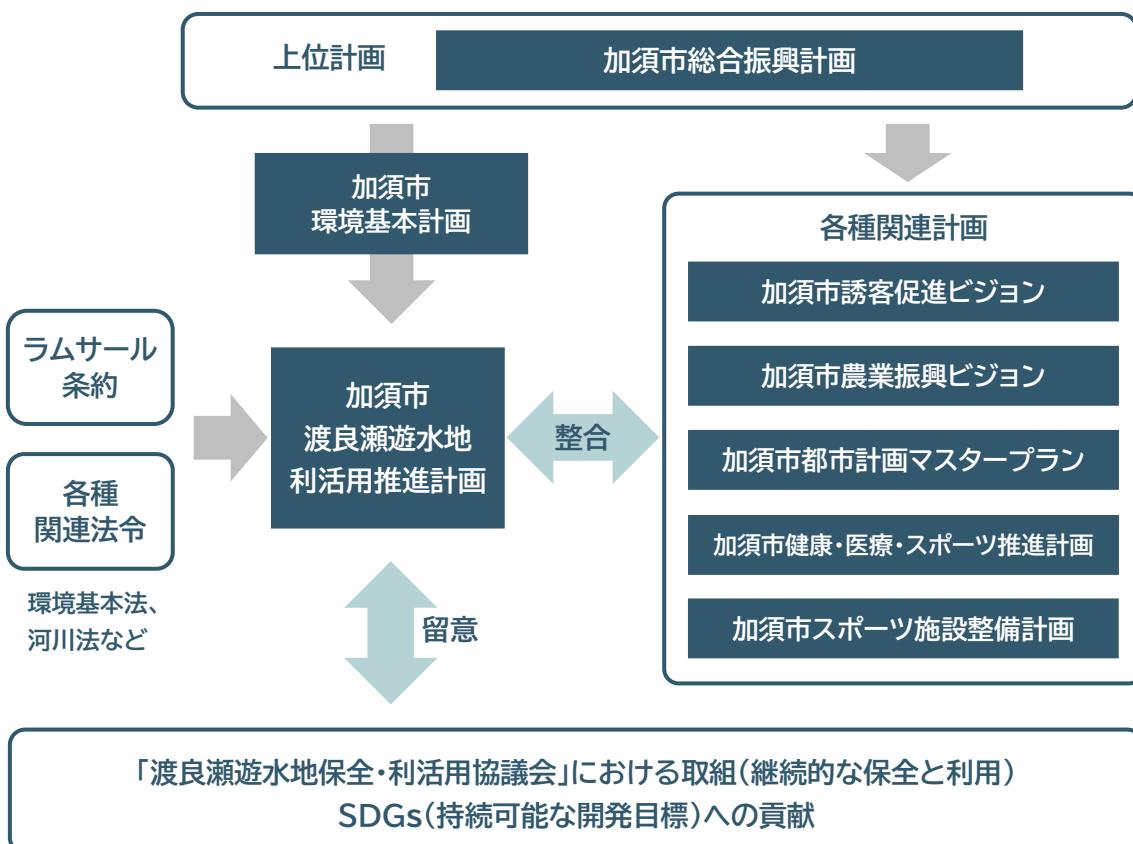
：固有名詞として使用する場合は「渡良瀬遊水地」、前後の文脈から遊水地の状況や機能などを表す場合は「遊水地」と表記します。

1-2 計画の位置付け

本計画は、渡良瀬遊水地の利活用を促進するため、ラムサール条約の理念を踏まえつつ、将来像の共通認識を促し、その実現を目指していくための計画であり、策定に当たっては、「加須市総合振興計画」を上位計画として、「加須市環境基本計画」をはじめ、各種関連計画との整合を図ります。

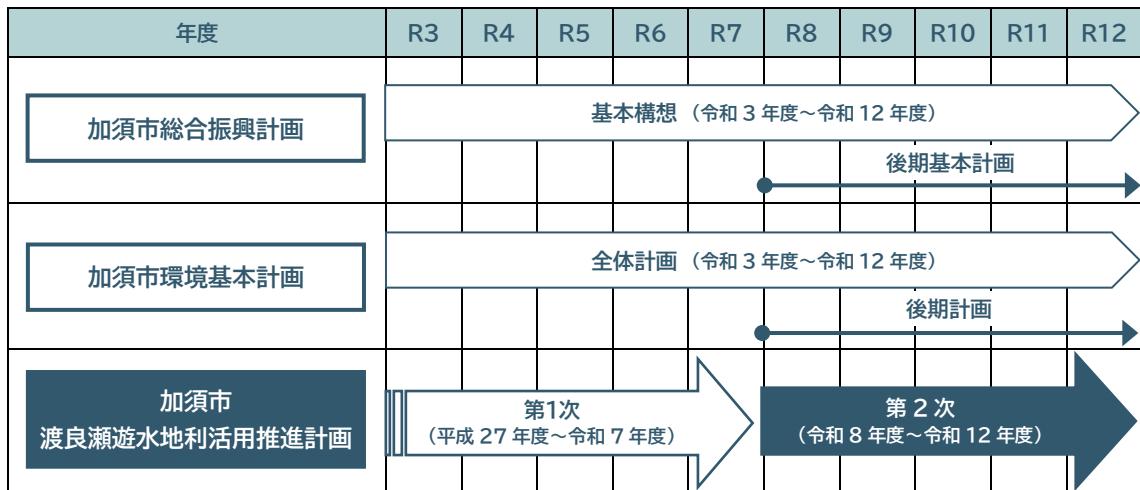
本計画に基づく施策や事業の実施に際しては、「渡良瀬遊水地保全・利活用協議会」における取組(継続的な保全と利用)や、「SDGs(Sustainable Development Goals)持続可能な開発目標」への貢献に留意するものとします。

なお、本計画は、「加須市総合振興計画」における将来都市像実現のための関連計画に位置付けられますが、必ずしも年度ごとの予算措置と連動しない、長期的な目標・ビジョンとしての性格を有する計画であることから、将来にわたる渡良瀬遊水地の利活用に関する夢のある将来像を描き、その実現を見据え、多種多様なアイデアを含む施策・事業等を定めるものとします。



1-3 計画の期間

本計画における長期的な視点に立った渡良瀬遊水地の利活用に関する将来像を見据えつつ、当面、実施可能なあらゆる施策・事業等に取り組んでいく計画の期間を 5 年間(令和 8 年度～令和 12 年度)と設定します。



1-4 計画の対象地

本計画では、渡良瀬遊水地の加須市該当エリア、北川辺地域及びその周辺を対象地とします。

注)本計画において対象地を表現する際には、渡良瀬遊水地が加須市の有する大きな魅力の 1 つであることや、渡良瀬遊水地と周辺の地域資源とが一体となって利活用を推進していくことなどを念頭に、道の駅や FM 局にも名称として使用され、市内外での認知度も高まりつつある「かぞわたらせ」の呼称を用いるものとします。

2 渡良瀬遊水地を取り巻く状況

2-1 渡良瀬遊水地

渡良瀬遊水地は、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県の4県にまたがる日本最大の遊水地です。南北に9km、東西に6kmあります。広大な自然環境とオープンスペースを活かし、自然観察や釣り、水上スポーツ、スカイスポーツ、サイクリングなどで多面的に利用されています。平成24年にラムサール条約登録湿地となり、今後のさらなる利活用が期待されています。

日常的な管理は、主に、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所や一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団により行われています。



■面積

	渡良瀬遊水地	ラムサール条約登録湿地	
		全体	加須市該当エリア
面積	約 3,300ha	約 2,861ha	約 51ha(約 1.7%)
周囲延長	約 30km	—	—

■自然

渡良瀬遊水地の自然環境は緑豊かな広大なヨシ原が特徴で、遊水地全体の面積の内、2,500haが植生におおわれており、本来の低地の自然環境が保全された貴重な存在となっています。多数の動植物が生息・生育しており、植物で約1,000種、鳥類約275種、昆虫類(陸上、水中)約1,700種、魚介類約78種がいます。これは、遊水地としての機能を保持するために、広大なヨシ原や沼をごく自然にしてきた結果によるものです。近年は、人工巣塔でコウノトリの繁殖も見られるようになりました。

一方で、近年は「イノシシ」が多く発見されるようになり、貴重な湿原や生態系への懸念や、周辺農地等への被害が発生しています。

■歴史

かつて、渡良瀬遊水地の一帯は周辺より土地が低く、川の水が自然に遊水する大湿地帯でした。渡良瀬川、思川、巴波川の下流部の洪水被害とともに、足尾銅山から渡良瀬川に流れ出した鉛毒被害に対応するため、明治 43 年に内務省による改修事業が始まり、昭和 5 年に渡良瀬遊水地が完成し現在の形になりました。これにより、洪水調整機能は増大しました。

当初の遊水地の候補地は、川辺村及び利島村（現在の北川辺地域）でしたが、反対が強く、翌年谷中村に変更になりました。田中正造による反対運動は続きましたが、計画は進み、谷中村は廃村となりました。旧谷中村は現在の谷中湖の北側にあります。

2-2 周辺の主な施設等

①道の駅かぞわたらせ

道の駅かぞわたらせは、県道 9 号佐野古河線沿い、渡良瀬遊水地の堤防の上に立地しています。令和 2 年に「道の駅きたかわべ」から名称を変更し、「道の駅かぞわたらせ」になりました。旧スポーツ遊学館の建物等を道の駅の一施設として利活用しています。物産販売施設、食事処、軽食店があるほか、レンタサイクルの貸し出しなどを行っています。駐車場には、大型車 22 台、普通車 33 台を停めることができます。また、令和 5 年、旧スポーツ遊学館の建物にコミュニティ放送局「FM かぞわたらせ」が開局しました。

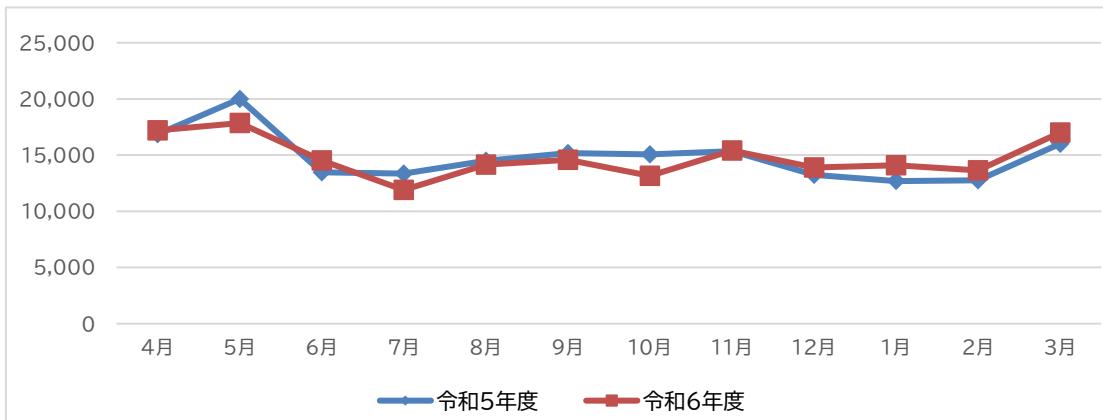
令和 6 年度利用者は年間合計 177,469 人、月平均では 14,789 人となっています。令和 5 年度と比較すると年間 1,020 人減、月平均 85 人減となっており、令和 7 年度の 4~6 月利用者の状況も踏まると全体的には減少傾向がうかがえます。



■建物の概況

建物	物産販売施設	旧スポーツ遊学館
主な機能	物品販売、飲食、休憩所	物品販売、FM 局
建築年月日	平成 16 年 10 月 31 日	平成 15 年 3 月 31 日
床面積	388.80 m ²	539.91 m ²
利用時間	8 時から 17 時まで	9 時から 17 時まで

■道の駅かぞわらせ利用者の推移



②北川辺地域の公共交通

東武日光線が北川辺地域北部を東西に横断しており、東側、谷田川と渡良瀬川の合流地近くに、新古河駅、西側に柳生駅があります。新古河駅は橋上駅舎となっており、線路の南北から利用できますが、柳生駅は南口のみです。また、柳生駅が渡良瀬遊水地中央エントランスの最寄駅です。

北川辺地域を運行する民間路線バスはありません。また、タクシー交通は、発着地のいずれもが北川辺地域となる場合には、民間タクシー事業者による運行は提供されていません。発着地のいずれかが北川辺地域の場合は、加須地域や隣県の古河市、板倉町の事業者に配車を依頼する必要があります。

市のコミュニティバスとして、新古河駅から柳生駅、北川辺総合支所等を経由し加須駅及び済生会加須病院に向かうシャトルバスが月曜日から土曜日に一日当たり往復 8 便運行しており、誰でも乗車することができます。渡良瀬遊水地に近いバス停留所は柳生駅、小野袋、柏戸の 3 か所となります。令和 6 年度シャトルバス利用者(新古河駅発・済生会加須病院発の合計)は年間 4,854 人、一日当たり約 15.5 人となっています。コロナ禍後の令和 4 年度と比較すると、年間 316 人増、一日当たり約 1.0 人増の結果であり、全体的には微増傾向がうかがえます。

さらに、デマンド型乗合タクシーが運行しており、北川辺地域は利根川以北の北エリアに該当します。乗り継ぎ場所である「道の駅童謡のふる里おおとね」や、エリア外の乗り入れポイントである加須東病院、大利根総合福祉会館、栗橋駅西口、カインズモール大利根、ピアシティ大利根にアクセスすることもできます。



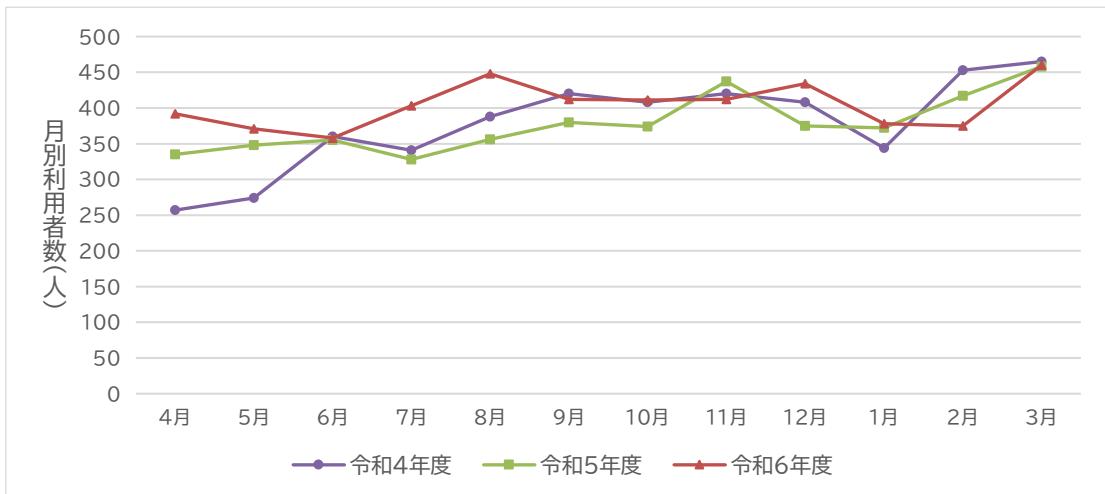
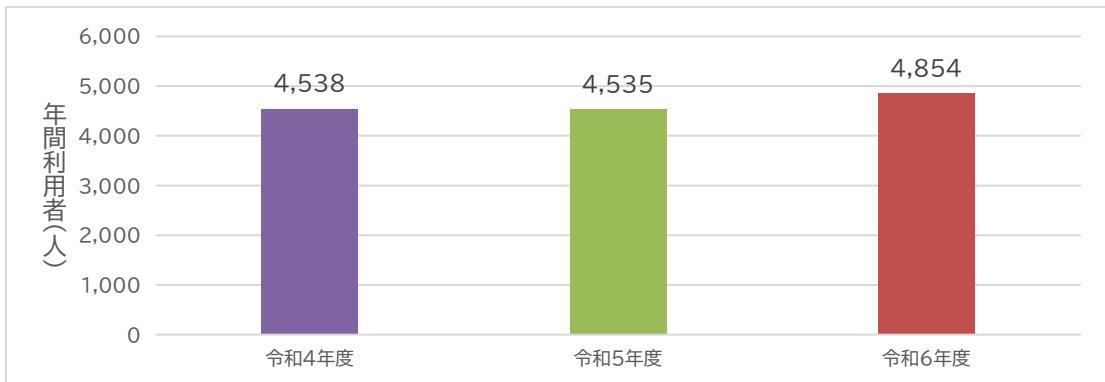
■東武鉄道駅の1日平均乗降人員

(人)

駅名	令和5年度		令和6年度	
	定期外・定期 合計	うち定期	定期外・定期 合計	うち定期
栗橋駅	10,131	6,282	9,733	5,828
新古河駅	1,179	878	1,197	864
柳生駅	1,037	768	1,027	750
花崎駅	9,567	7,348	9,690	7,480
加須駅	12,532	9,094	12,566	9,068

※定期…定期券(通勤・通学の2種類)

■コミュニティバス「かぞ絆号」シャトル利用状況



③渡良瀬総合グラウンド

渡良瀬総合グラウンドには、野球場・多目的広場(土・芝)、テニスコートが整備され、稼働日数・稼働時間ともに休日における稼働率が高くなっています。

特に、多目的広場(芝)の稼働率がひと際高くなっている反面、テニスコートの稼働率は低いものとなっています。

■ 施設概要

- ・野球場 2 面(外野芝生)
 - ・多目的広場(土グラウンド)ソフトボール場 4 面又はこども用サッカー場 4 面
 - ・多目的広場(芝グラウンド・サッカー専用)おとな用 1 面又はこども用 3 面
 - ・テニスコート 4 面(ハードコート)

■利用時間

9:00～17:00(芝生グラウンドは1月～3月は利用休止)

■利用料金

- ・野球場 200 円(1面 1時間)
 - ・多目的広場(土グラウンド)100 円(1面 1時間)
 - ・多目的広場(芝グラウンド)100 円(1面 1時間)
 - ・テニスコート 200 円(1面 1時間)

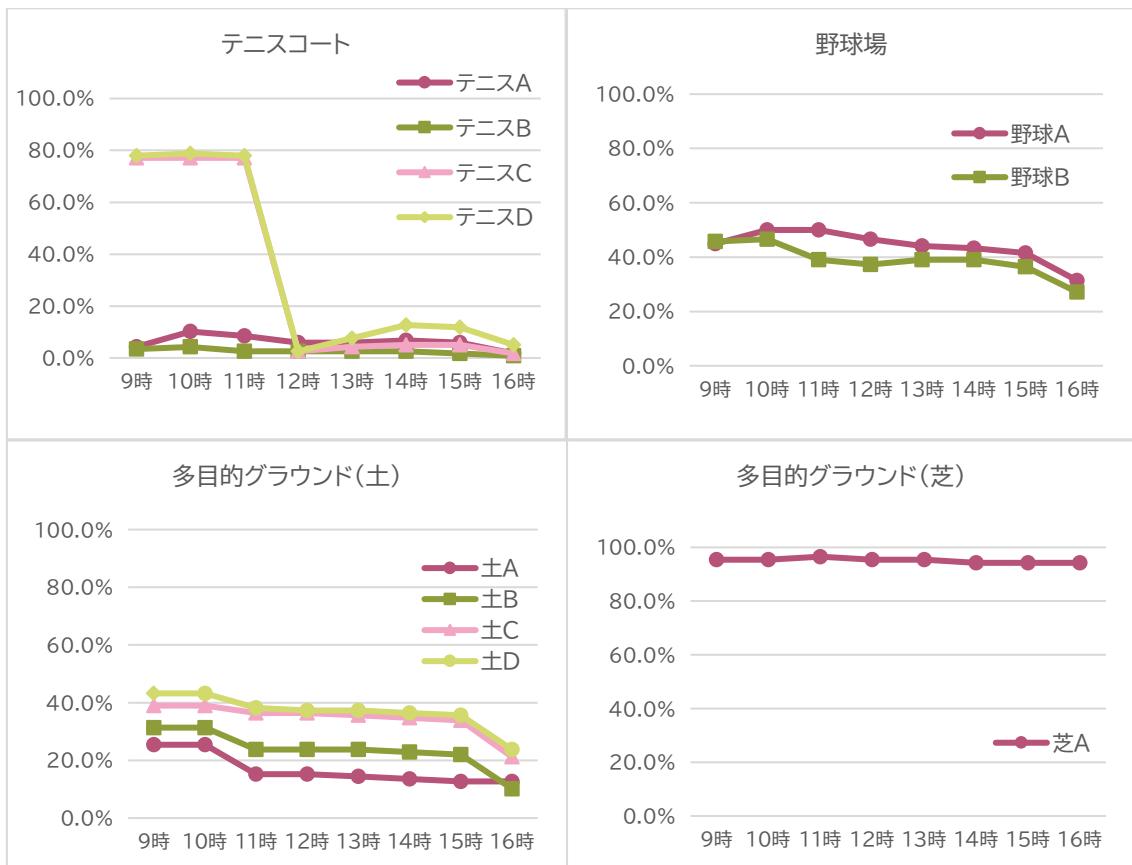
※相互利用協定(行田市、羽生市、久喜市、茨城県古河市、栃木県栃木市、栃木県小山市、栃木県野木町、群馬県板倉町)地域の在住者は加須市民と同じ条件で利用できます。同様に、加須市民はそれらの地域の施設を利用できます。



■施設稼働率

区分		稼働日数						稼働時間					
		日数			稼働率(%)			時間			稼働率(%)		
		平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計	平日	休日	計
テニスコート	A	2	21	23	0.8	17.8	6.3	5	50	55	0.3	5.3	1.9
	B	1	5	6	0.4	4.2	1.6	6	16	22	0.3	1.7	0.8
	C	9	92	101	3.6	78.0	27.7	20	284	304	1.0	30.1	10.4
	D	25	95	120	10.1	80.5	32.9	31	311	342	1.6	32.9	11.7
野球場	A	4	67	71	1.6	56.8	19.5	10	400	410	0.5	42.4	14.0
	B	2	56	58	0.8	47.5	15.9	16	358	374	0.8	37.9	12.8
多目的グラウンド	土A	0	29	29	0.0	24.6	7.9	—	151	151	—	—	—
	土B	20	36	56	8.1	30.5	15.3	—	215	255	—	—	—
	土C	0	46	46	0.0	39.0	12.6	—	318	318	—	—	—
	土D	5	53	58	2.0	44.9	15.9	—	340	352	—	—	—
	芝	4	82	86	2.1	94.3	31.3	—	651	678	—	—	—

■休日の時間帯別利用状況



④渡良瀬遊水地周辺の地域資源(三県境、オニバス自生地)

周辺の観光資源として、三県境やオニバス自生地があります。



⑤渡良瀬遊水地周辺のその他の施設(北川辺ライスパーク、北川辺郷土資料館、加須未来館)

渡良瀬遊水地周辺のその他の市の施設として、農業体験施設「北川辺ライスパーク」、「北川辺郷土資料館」、県の施設である加須サイクリングセンターと隣接するプラネタリウム等科学体験施設「加須未来館」があります。

建物	北川辺ライスパーク	北川辺郷土資料館	加須未来館
主な機能	研修室、料理室、情報室	展示室	プラネタリウム、天体観測室、実験室、農産物直売所、食堂等
建築年月日	平成7年4月1日	平成17年6月30日	平成12年12月28日
床面積	475.19 m ²	495.94 m ²	1,341 m ²
利用時間	9:00~17:00	9:00~16:00	9:00~17:00
休館日	月曜、年末年始	平日、年末年始	火曜、年末年始

⑥渡良瀬遊水地及び近隣に関連した加須市内のイベント

加須市内では、多岐にわたるイベントが年間を通じて開催されています。

開催時期	イベント名称	開催場所	主催者
5月	加須市民平和祭 (ジャンボこいのぼり遊泳、対岸イベント等)	利根川河川敷緑地公園	加須市民平和祭実行委員会
6月	彩の国トライアスロンイン加須大会 JTU 関東トライアスロン選手権大会 兼県民総合体育大会トライアスロン競技会	渡良瀬遊水地内 特設コース	彩の国トライアスロン大会実行委員会、JTU 関東選手権大会実行委員会

開催時期	イベント名称	開催場所	主催者
9~10月	かぞ観光サイクリングラリー	市内全域(渡良瀬遊水地に近接する施設等を含む)	加須市
9月	渡良瀬遊水地まつり in KAZO	渡良瀬総合グラウンド	渡良瀬遊水地まつり in KAZO 実行委員会
11月	紅葉チャレンジ トライアスロン・デュアスロンフェスティバル in 加須大会	渡良瀬遊水地内特設コース	紅葉チャレンジトライアスロン・デュアスロンフェスティバル in 加須大会実行委員会

2-3 周辺市町の施設

加須市周辺市町においては、展示や環境学習、体験活動ができる施設や、スポーツ・レジャーを楽しむことができる施設が多数立地しています。

所在地	施設名	主な機能
栃木市	渡良瀬遊水地湿地資料館 (一般財団法人 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団)	展示、環境学習
	体験活動センターわたらせ (一般財団法人 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団)	体験活動、展示
	栃木市藤岡歴史民俗資料館	歴史資料館
	渡良瀬遊水地ハートランド城	展示、体験活動
	藤岡渡良瀬運動公園	野球場、サッカー場、陸上競技場、テニスコート
	渡良瀬遊水地子供広場ゾーン	デイキャンプ
小山市	渡良瀬遊水地コウノトリ交流館	展示、環境学習
板倉町	わたらせ自然館	展示、環境学習

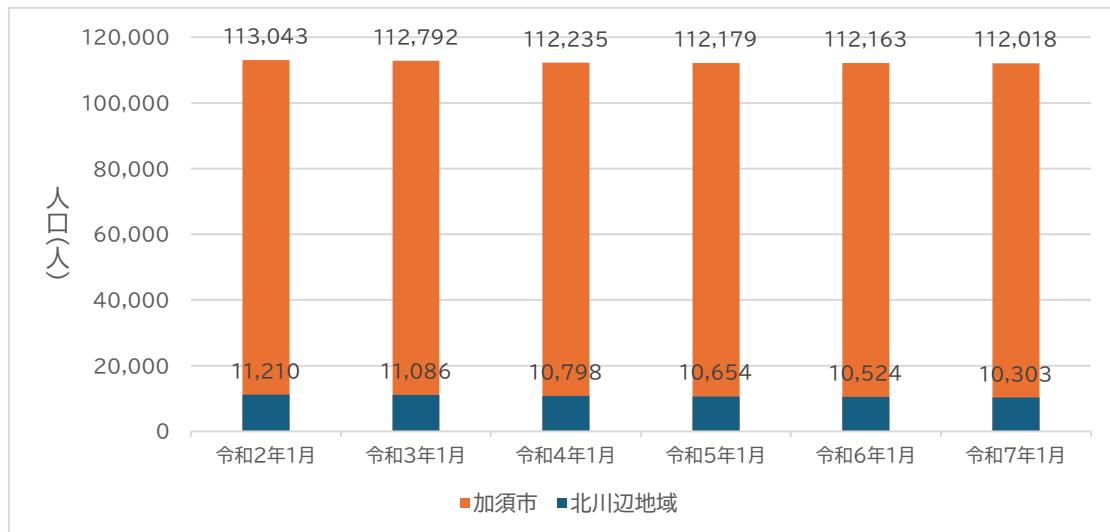
2-4 北川辺地域の人口等

①人口・世帯数

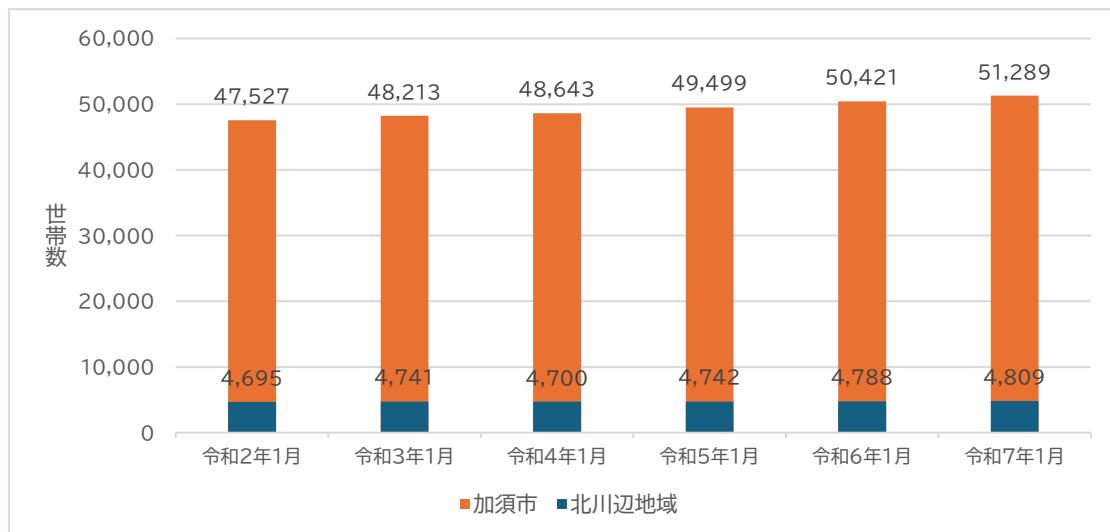
加須市の人口は令和7年1月1日現在で112,018人であるのに対し、本計画の対象となる北川辺地域の人口は10,303人となっており、市全体の約9.2%を占めている状況です。なお、北川辺地域においては、令和2年1月からの5年間で907人の減少(△8.1%)を示しており、これは市全体の1,025人減少(△0.9%)の動きと比較しても、人口減少傾向が顕著なものとなっています。

加須市の世帯数は令和7年1月1日現在で51,289世帯であるのに対し、北川辺地域の世帯数は4,809世帯となっており、市全体の約9.4%を占めている状況です。北川辺地域においては、令和2年1月からの5年間で114世帯の増加(2.4%)を示しており、市全体の3,762世帯増加(7.9%)の動きと比較すると、やや小幅な増加傾向となっています。

■人口の推移



■世帯数の推移



②少子化・高齢化

北川辺地域の年少人口(14歳以下)は、令和7年3月31日現在で711人であり、地域人口10,199人に対する年少人口率は7.0%となっており、加須地域の10.8%、騎西地域の9.3%、大利根地域の11.7%、市全体の10.3%と比較して、少子化が進行している地域であることがうかがえます。

同様に、老人人口(65歳以上)は3,975人、老人人口率は39.0%となっており、加須地域の29.7%、騎西地域の33.4%、大利根地域の32.5%、市全体の31.5%と比較して、高齢化が進行している地域であることがうかがえます。

少子化・高齢化の進行する北川辺地域の平均年齢は53.64歳であり、市全体の平均48.98歳より5歳以上も上回っている状況です。

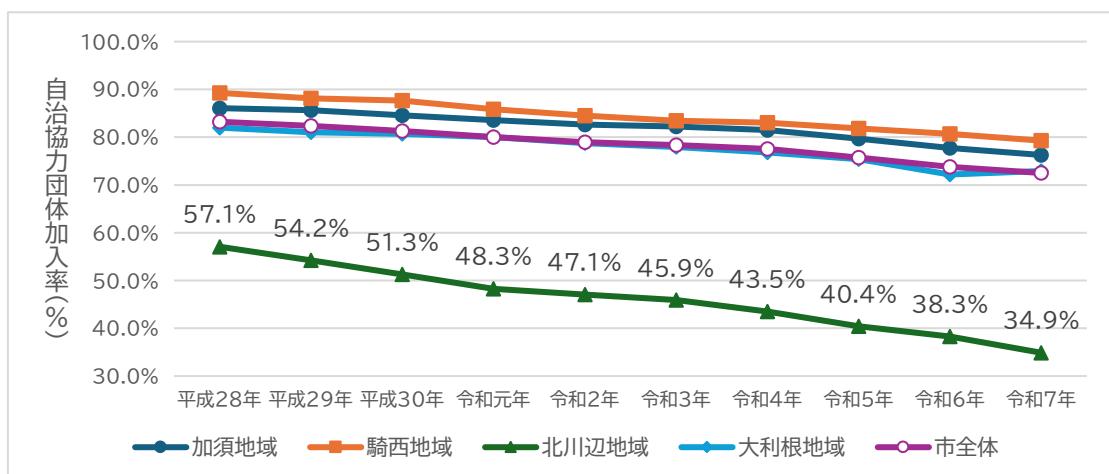
■年少人口率・老人人口率・平均年齢

地域	年少人口率 (14歳以下)	老人人口率 (65歳以上)	平均年齢
加須地域	10.8%	29.7%	48.06歳
騎西地域	9.3%	33.4%	49.96歳
北川辺地域	7.0%	39.0%	53.64歳
大利根地域	11.7%	32.5%	48.75歳
市全体	10.3%	31.5%	48.98歳

③自治協力団体

北川辺地域の自治協力団体の加入率は令和7年5月1日現在で34.9%であり、10年前となる平成28年の57.1%から大幅に減少しています。また、加須地域の76.3%、騎西地域の79.3%、大利根地域の72.9%と比較しても、北川辺地域の加入率は特に低い状況となっています。

■自治協力団体加入率



3 計画策定の前提条件・6つの課題の整理

3-1 基本的な条件

第2次計画の検討の際に踏まえるべき必要な要素を、基本的な条件として 4 つに分類・整理しました。

1 | 遊水地の環境保全

渡良瀬遊水地の湿地環境は多様な生態系を育んでおり、ラムサール条約の登録湿地となっています。鳥類約 275 種、昆虫類約 1,700 種、魚介類約 78 種、植物約 1,000 種が確認されており、うち 180 種が国指定の絶滅危惧種です。近年は、貴重な植物の盗掘が報告されています。湿地特有の生態系や生き物が暮らす環境の保全に向け、湿地教育の推進等による周知・啓発が期待されます。

2 | 治水と歴史、自然環境保全に関する周知・啓発

この一帯は、かつて地形的に周辺より一段と低く洪水が自然に遊水する大湿地帯であり、渡良瀬川、思川、巴波川等の下流部の洪水被害とともに、足尾銅山から渡良瀬川に流れ出した鉱毒による被害に対応するために、明治 43 年から内務省による改修事業が始まり、昭和 5 年に渡良瀬遊水地が完成しました。その後、相次ぐ大洪水を契機に、新しく囲繞堤(いぎょうてい)や越流堤(えつりゅうてい)を設け、大きな洪水の時だけ調節池の中に川の水が入るようにし、洪水調節機能を増大させて現在の姿となりました。

遊水地の予定地は、埼玉県北埼玉郡川辺村、利島村(現在の北川辺地域)でしたが、田中正造らによる反対が強く、谷中村に変更となり、現在の谷中湖となりました。本市と渡良瀬遊水地の関係は深く、歴史を含めた周知啓発が期待されます。

3 | 遊水地を活用したアクティビティとの連携

渡良瀬遊水地では、熱気球、バードウォッチングのほか、SUP(スタンドアップパドルボード)や釣りなどのウォーターアクティビティや、サイクリング、トライアスロンなど、様々なアクティビティが行われています。本市では、遊水地南側にグラウンドやテニスコートを有しています。また、自転車の貸し出しも行っています。アクティビティに関連したイベントや他市町と連携した取組が期待されます。

4 | 地域資源の活用

鉄道は、渡良瀬遊水地の南側を沿うように東武日光線が走っており、東側に新古河駅、渡良瀬遊水地中央エントランス近くに柳生駅があります。渡良瀬遊水地近くには、道の駅かぞわたらせ、渡良瀬総合グラウンドがあるほか、関東では珍しいオニバスの自生地や三歩で栃木県・群馬県・埼玉県を往来できる三県境があります。さらに、北川辺地域の歴史や文化がわかる郷土資料館や農業体験施設ライスパークがあります。鉄道駅の立地を生かし、周辺資源と連携した利活用が期待されます。

3-2 社会情勢の変化

第2次計画の検討の際に踏まえるべきトレンド、社会情勢の変化は次の7つです。

1 | 余暇重視のライフスタイルの広がり

近年、趣味・余暇分野の流行や市場拡大がメディアにおいて取り上げられています。実際に、レジャー白書2024によると、仕事より余暇に生きがいを求める人の割合は、平成21年に18.6%でしたが、令和5年には34.1%まで大きく上昇しています。人々が余暇に「自然とのふれあい」や「体験」を求める傾向にあり、余暇活動のアウトドア志向や体験型レジャーへの関心が高まっています。

2 | 農業環境への関心の高まり

「行方ファーマーズビレッジ」や「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」など、農業体験や6次産業をテーマにする施設やコンテンツが増加しているほか、市民農園や貸農園、農園のオーナ制度など、農作業に関わる人が増加しています。これまで、趣味としての農作業は、シニア層の定年後の余暇として注目されてきましたが、日本生命の調査では50・60代よりも20・30代のほうが「農作業を体験したい」と思っている人の割合が高いことがわかっています。

3 | ウェルビーイング志向の高まり

まちづくり分野においては、働き方改革に端を発し、ウェルビーイング志向が高まっています。ワークライフバランスが重要視される中、まちづくりの一つの大きなゴールとして、ウェルビーイングを示す市民の幸福度が指標として用いられるケースが増加しています。

4 | 協働のまちづくり

少子高齢化による人口減少が加速しており、地方部では人口増加のまちづくりから関係人口、交流人口増加のまちづくりにシフトしています。加えて、協働のまちづくりも定着しつつあり、地域団体や市民団体、自治会などが主体となり、市と協働で地域課題の解決に取り組んでいます。

5 | 加須市として一体感のあるまちづくり

加須市は、平成 22 年に旧加須市、旧騎西町、旧北川辺町、旧大利根町が合併し、現在の加須市となりました。令和 7 年に合併 15 周年を迎え、更なる一体感のあるまちづくりが求められています。

6 | 治水・防災への関心の高まり

防災・治水分野においては、災害の激甚化や令和元年東日本台風など全国的に多発する水害により、ダムや堤防などへの関心が高まっています。治水を目的に建設された遊水地として、防災や治水について発信・啓発していく必要があります。

7 | SDGs に関する取組の実施

行政、企業かかわらず SDGs(Sustainable Development Goals)「持続可能な開発目標」を達成することが重要とされています。

本計画においても、遊水地の保全や事業推進を通して、この取組に寄与していきます。



3-3 計画策定に当たっての6つの課題

これまでの第1次計画の取組・実績を踏まえた第2次計画策定に当たっての課題は次の6つです。

1 | 市民の渡良瀬遊水地に対する親近感の醸成

渡良瀬遊水地のうち、本市該当エリアは非常に限られており、湿原等の自然環境をほとんど見ることができません。また、渡良瀬遊水地と隣接するエリアは、堤防と谷田川により狭まっています。景観としても、高い堤防にさえぎられており、市民にとつても、生活の中で渡良瀬遊水地とのつながりを感じることが難しくなっています。

2 | 周辺施設等への制約条件・地理的特性を踏まえた取組の推進

道の駅かぞわたらせや渡良瀬総合グラウンド等の周辺施設には、多くの制約条件がかかっています。駐車場の拡大などが課題となっている道の駅ですが、堤防上に立地するため高低差により敷地面積や周辺道路との接続が制限されてしまっています。また、谷田川と堤防の間にあるグラウンドなどは、河川管理の観点から活用の制約条件が多く、施設機能の強化が進んでいない現状にあります。さらに、施設周辺の県境の複雑さは、三県境という魅力を生み出している一方で、利活用を難航させる一因にもなっています。

なお、令和6年度に整理したアイデア60提案のうち25件において、制約条件・地理的特性が課題として挙げられています。

3 | 豊富なアイデアに対する担い手不足の解消

自然環境、サイクリングコース、ウォータースポーツ、周辺の田園風景や暮らし、農業、歴史、治水学習など、渡良瀬遊水地の周辺は多くの魅力であふれており、活用するためのアイデアは尽きませんが、府内外かかわらず担い手不足によりアイデアの実現や魅力の活用が進まない現状にあります。

なお、令和6年度に整理したアイデア60提案のうち16件において、担い手不足が課題として挙げられています。

4 | 柳生駅のポテンシャルの活用

東武日光線柳生駅は、渡良瀬遊水地中央エントランスの最寄駅であり、都内へのアクセス性が高い駅となっています。しかし、駅から渡良瀬遊水地や周辺観光資源を結ぶ交通手段がなく、駅・鉄道を活用した渡良瀬遊水地の利用が難しくなっています。地域からも橋上化、北側整備の声が上がっていますが、利用者の少なさから、実現が難しい状況にあります。渡良瀬遊水地と連携した駅利用者の増加、整備が期待されます。

5 | 共通性・ストーリー性の強化

渡良瀬遊水地を活用した事業案やアクティビティは、多岐にわたっていますが、共通のテーマがなく、個別に独立して行われています。渡良瀬遊水地の利活用において、1つの共通テーマを持つことで、情報や事業の連携による相乗効果が期待されます。

6 | 他市町との連携及び差別化の推進

渡良瀬遊水地の多くの面積を有する栃木市では、熱気球イベントをはじめ、湿地を活かした取組やサイクリング・ディキャンプなどが行われています。湿地部分を有する小山市ではコウノトリに関する取組、板倉町は谷中湖北ブロックに面することからウォータースポーツに関連した取組に注力しています。加須市が渡良瀬遊水地の利活用を進めるに当たっては、こうした隣接市町との連携を図り、渡良瀬遊水地をぐるりと囲むエリアを一緒に盛り上げていくとの共通認識を持ちながら、一方で、限られた環境と加須市ならではの個性を活かし、加須にしかできない渡良瀬遊水地の利活用を検討していく必要があります。

4 計画策定の3つの戦略

前段の課題を踏まえて、第2次計画の策定における戦略を以下に整理しました。

戦略1：「かぞわたらせ」の個性は“渡良瀬遊水地の玄関口”

渡良瀬遊水地のある他市町の特徴に比べ、加須市の押し出す個性は“玄関口”です。渡良瀬遊水地中央エントランスの最寄駅という柳生駅の立地を活用し、東武鉄道との密接な連携等により、「渡良瀬遊水地に来るなら柳生駅で降りる」というイメージづくりをするだけでなく、情報においても「加須のサイトに行けばすべて分かる」「とりあえず、道の駅かぞわたらせに立ち寄ると渡良瀬遊水地のことが分かる」という状態を創り出し、鉄道での来訪者、車での来訪者、情報において加須市が渡良瀬遊水地の玄関口になることを目指すものとします。

戦略2：市民みんなが「かぞわたらせ」を身近に感じられる存在に

本計画は、渡良瀬遊水地の利活用に関する計画であり、北川辺地域における地域コミュニティの維持や交流人口の拡大など、地域活性化にも大きく寄与するものです。情報発信やソフトの取組においては、エリアを加須市全域を対象に行い、加須地域、騎西地域、大利根地域における渡良瀬遊水地の認知度の向上と心理的距離の短縮により、加須市全域の一体感づくりの一助となることを目指すものとします。

戦略3：行政による担い手育成と市民協働

本市では、既に「渡良瀬遊水地まつり in KAZO」など各種イベントを実施していることから、今後実施が期待される新たなイベント等については、市が主体となって進めるのではなく、担い手を育成し間接的に支援を進めていくことが大事になります。担い手は、渡良瀬遊水地が好きな人、渡良瀬遊水地で何かをやってみたい人、地域活動に関わってみたいがどうしたらよいかわからない人など、地域住民に限らず市内外を対象にしていくことを目指すものとします。

▼ 集約

3つの戦略(まとめ)：市民とともに将来像を描き、実現していくための計画

本計画は、市民とともに渡良瀬遊水地の立地条件や特性を踏まえた利活用の共通のイメージ、将来像を描き、共有していくための計画です。その将来像の実現に向けた協働の取組が、行政や一部の市民・団体のみならず、より多くの担い手により今後も継続的かつ活発に行われていくよう、誰にも身近で分かりやすく、親しみや興味を感じてもらえる計画づくりを目指すものとします。

5 計画の方針

5-1 基本理念・基本コンセプト

■ 基本理念

渡良瀬遊水地の利活用に際しては、ラムサール条約の理念である湿地の「保全・再生」「賢明な利用(ワיזユース)」「交流・学習」の推進の考え方に基づきながら、有効な利活用策の積極的かつ継続的な実施に努めていくものとします。

■ 基本コンセプト

渡良瀬遊水地の利活用における基本理念や、計画策定の戦略の内容等を踏まえ、第2次計画の将来像となる基本コンセプトを下記の通りとします。

LOHAS Station かぞわたらせ

– “LOHAS Station かぞわたらせ”とは –

LOHAS(Lifestyle of Health and Sustainability)は、健康的・環境・持続可能な社会生活に重点をおいた生活スタイルを示しています。Station は東武日光線柳生駅と道の駅かぞわたらせにかけています。また、駅は旅の出発地や出会いを象徴する言葉でもあります。

「LOHAS Station かぞわたらせ」は、水、空、湿地、自然、生き物、農業、スポーツ、健康づくり、生活、地域コミュニティ、来訪者、周辺市町などが交わる様子をイメージし、渡良瀬遊水地での活動の出発駅としての「かぞわたらせ」を通じて、日常に渡良瀬遊水地が溶け込む、持続可能なライフスタイルを示しています。

本計画では、多様な地域資源を有する加須市渡良瀬遊水地周辺を LOHAS が集まる駅に見立て、「LOHAS Station かぞわたらせ」の実現を念頭に、市民をはじめ、より多くの人が利活用策に関わり、交流する、協働の取組を進めていくものとします。

高齢化社会において健康づくりは重要なテーマであり、本市が推進する KAZOLING や渡良瀬総合グラウンドとも親和性が高くなっています。また、趣味や余暇に重きを置く近年の需要を考慮すると、生活の一部になるほど重要な存在になること、ライフスタイルの一部になることが持続可能な利活用に必要であると考えられます。

「LOHAS Station かぞわたらせ」というフレーズは、上記に示した意味に加え、多様な意味が込められています。その例を次頁に示します。

LOHAS

《解釈の例》

- 渡良瀬遊水地の治水による持続可能な生活(Sustainability)
- 渡良瀬遊水地と周辺自然環境の保全(Sustainability)
- 渡良瀬遊水地周辺の自然環境を活かした農業の保全(Sustainability)
- 農業を生業とする生活の保全(Lifestyle of Sustainability)
- 渡良瀬遊水地の立地を活かしたスポーツ振興による健康づくり(Lifestyle of Health)
- 渡良瀬遊水地の環境を市民が身边に感じられる(Lifestyle of Sustainability)
- 地産地消(Sustainability)
- 鉄道で来訪(Sustainability)

Station

《解釈の例》

- 道の“駅”、柳生“駅”
- 旅の起点・通過点・目的地
- 人と人が出会う場所、モノが交差する場所
- 三県境(3つの県が交差する場所)
- 地域活動を始める出発地点
- 渡良瀬遊水地をめぐるサイクリング等の出発地点
- 渡良瀬遊水地と加須市のつながりが感じられる場所
- 共通プラットフォームづくり

※ロゴイメージ



5-2 基本方針

第2次計画の将来像となる基本コンセプトの実現に向けた、取組の柱となる5つの基本方針を設定します。

- ❖ I Environmental Sustainability 渡良瀬遊水地を含む流域環境の保全
- ❖ II Wellness and Activity 地域資源を活用した健康づくりの推進
- ❖ III Station and Connectivity 地域資源と連携した拠点整備と回遊性の向上
- ❖ IV Lifestyle Proposal 渡良瀬遊水地のある暮らしの提案
- ❖ V Resilient Promotion System 市民主体・協働事業の推進

5-3 個別方針・個別施策

5つの基本方針に基づきながら、具体的な事業等の方向性を示す個別方針や個別施策について、それぞれの分野や、目的・手段の関係が分かりやすいよう体系的に組み立て整理します。

注) 現時点の骨子案の段階では、個別方針・個別施策を体系的に一覧表にして整理しています。

個別施策の表内には、現時点で想定される事業を暫定的に配置していますが、必ずしも第2次計画への位置付けが確定したものではなく、今後の素案作成段階における、事業実施可能性に関する府内協議等を踏まえ、確定していく予定です。

【表内の見方】

●番号.事業名 黒字表示

:第1次計画の事業のうち、第2次計画への位置付けが想定される事業(継続実施 88 本・事業の再構築 4 本)を暫定的に配置

●番号.事業名 赤字表示(【新たなアイデア】の下部)

:令和6年度に整理した新たなアイデアのうち、第2次計画への位置付けが想定される事業を暫定的に配置

■ I Environmental Sustainability 渡良瀬遊水地を含む流域環境の保全

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
1 遊水地の保全	<p>*遊水地保全活動への支援・協力</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・10.渡良瀬遊水地周辺施設・団体等の連携強化 ・75.加須市内小学校の課外授業
2 オニバス自生地の保全	<p>*オニバス自生地保全活動への支援・協力</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・74.自然を活かした環境学習の実施
3 農業用地の保全	<p>*農業用地の保全への支援・協力</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・— <p>【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・43.道の駅周辺に観光農園
4 環境に関するコンテンツの充実	<p>*自然学習系コンテンツの実施促進</p> <p>*農業系(ライスパーク)コンテンツの実施促進</p> <p>*他市町との連携に関する施策</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・9.渡良瀬遊水地周辺施設・団体等の連携強化 ・72.自然を活かした環境学習の実施 ・76～77.遊水地と川の文化の学習・体験の実施 ・79.ヨシの葉による名刺等の体験作成 ・80.地元農家やライスパークとの連携強化による農業体験の充実 ・81.ラムサール条約登録湿地ヨシ焼き観察会 ・100.案内・サービス・体験提供の組織の構築 <p>【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10.遊水地の自然・歴史を学ぶ ・40.水の学習館

■ II Wellness and Activity 地域資源を活用した健康づくりの推進

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
1 スポーツ・健康づくり拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> *グラウンドの整備に関する施策 *道の駅の機能強化に関する施策 *中央エントランスとの連携強化に関する施策 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・11.施設の大規模改修・スマート化 ・22.自転車やアウトドア用品のレンタル・販売事業の開始 ・38.スポーツ用具を収納できる倉庫設置 <p style="color: red;">【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・21.多目的広場としての整備
2 地域資源を活用したアクティビティの充実	<ul style="list-style-type: none"> *グラウンドの利用促進に関する施策 *サイクリング系コンテンツに関する施策 *気球やウォータースポーツに関する施策 *民間主催のイベントの登録・認定制度 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・2.施設の改修 ・28.サイクリングやウォーキングの拠点としての育成 ・30.休憩所(埼玉県所有部分)の利便性改善 ・45.サイクリングコースの周知・PR ・46.サイン計画の立案とサインの設置 ・53.渡良瀬遊水地周辺サイクリング・ウォーキングガイドの配置 ・54.利根サイクリングコース等から渡良瀬遊水地までのサインの増設 ・61.各種スポーツイベントの充実 ・65.4県周遊混合レース ・67.スポーツ大会等の実施 <p style="color: red;">【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2.力ヤックツアー ・5.ニューススポーツ！渡良瀬水上ゴルフ場 ・29.道の駅のレンタサイクル充実 ・34.サイクリストの聖地 ・44.スポーツツーリズムの推進 ・48.サイクリストのための施設

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
3 周辺地域資源の魅力向上	<p>※三県境の活用に関する施策</p> <p>※田園景観の活用に関する施策</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・4.17.施設の改修 ・26.周辺堤防法面の管理(雑草)対策 ・42.観光資源の活用 ・96.周辺活動団体との話し合い、活動への参加誘導 <p>【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3.湿地内に木造散策路を整備 ・19.現計画にある多目的グラウンド内に桜を植樹した 景観づくり ・53.仕出沼周辺の環境整備 ・54.仕出沼を利用した水上公園の整備 ・55.旧合の川堤防の桜並木の延伸、柳生の桜堤の保全 ・57.三県境、オニバスの PR ・58.ライスパークのリニューアル

■ III Station and Connectivity 地域資源と連携した拠点整備と回遊性の向上

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
1 渡良瀬遊水地の利用拠点の整備	<p>*道の駅の活用に関する施策</p> <p>*グラウンドの活用に関する施策</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・1.施設の改修 ・12.施設の大規模改修・スマート化 ・13～15.施設の改修 ・21.アンテナショップの設置 ・25.施設の一体性、回遊性の強化 ・31.駐車場の再整備(埼玉県所有部分を含む) ・34.中核施設等との一体的活用 <p>【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・37.自然を感じられるホテル建設 ・45.スーパー堤防の拡張による道の駅の拡大及び駐車場の拡張
2 柳生駅の利用促進	<p>*駅の機能強化に関する施策</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・57.柳生駅の副駅名命名の検討 ・58.柳生駅の改修(北口開設)の検討 <p>【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50.柳生駅北口広場及びアプローチ道路の整備 ・51.駅からレンタサイクル
3 柳生駅を起点とする交通手段の確保	<p>*グリーンスローモビリティの実証実験</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・－
4 地域資源間のアクセシビリティの向上	<p>*回遊性と誘導に関する施策</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・23.施設の一体性、回遊性の強化(回遊路の整備等) ・32.県道から分かりやすく、特徴的な中央エントランスのシンボルの設置 ・41.中核施設との一体的活用 ・48.51.柳生駅～道の駅全体～渡良瀬総合グラウンド～渡良瀬遊水地の回遊強化 ・56.環境と交通弱者にやさしい移動手段の整備
5 共通プラットフォームの整備	<p>*オリジナルサイトの作成</p> <p>*統一ロゴの作成</p> <p>*イベントの登録制度</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・109.SNS活用によるプラットホームづくり ・110～111.シンボルやカード等の作成と周知 ・115.ご当地シリーズの作成

■ IV Lifestyle Proposal 渡良瀬遊水地のある暮らしの提案

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
1 渡良瀬遊水地関連コンテンツの周知・啓発	<ul style="list-style-type: none"> *治水学習系コンテンツの実施促進に関する施策 *市プロモーションで渡良瀬遊水地の写真活用 *東武沿線で渡良瀬遊水地&加須のプロモーションの実施 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・3.施設の改修 ・8.適切な資料・関連作品の展示 ・47.柳生駅構内掲示物・配布物の充実 ・73.自然を活かした環境学習の実施 ・78.渡良瀬遊水地検定の実施 ・82.渡良瀬エコスクール(市外小学生等対象)の実施 ・106.道の駅かぞわたらせホームページの充実 ・107.パンフレットの再編集 <p style="color: red;">【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・33.北川辺の地域資源をモチーフに小さなフィギュアを作成しガチャで販売
2 ライフスタイルの提案	<ul style="list-style-type: none"> *趣味で渡良瀬遊水地を訪れるライフスタイルの発信 *地産地消の推進 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・19~20.特產品等の開発、農産物の充実 ・87.農産物ブランド等の直売とPRの強化 ・89.料理教室(そば打ち、うどん打ち等)の開催 ・90.和食・地元食の伝道師の育成 ・91.渡良瀬遊水地にまつわる料理の提供 <p style="color: red;">【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・32.おむすび屋の開店

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
3 来訪者の受け入れ環境の整備	<p>*地域の人の理解促進に向けたイベントや施策</p> <p>*市報等での特集</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・6.案内板等の設置 ・59.渡良瀬遊水地まつり inKAZO の充実 ・60.各種スポーツイベントの充実 ・62.婚活イベント・結婚式等の開催 ・63.世界的資源巡りツアー(東武鉄道・東武トラベルと連携) ・64.加須市観光大使のトークショー・リサイタルの開催 ・66.縁結びを兼ねた神社の設置、おみくじやお守りの販売 ・83.農家民泊(宿泊機能の確保、地元の住民との交流) ・97~98.案内人の育成 ・112.KAZOポイントの実施 ・113.携帯電話GPS機能を用いた周辺案内、音声ガイド端末 <p>【新たなアイデア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28.道の駅からデリバリー ・31.外国人目線の情報発信
4 ファンのコミュニティ形成	<p>*交流の場づくり</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・84.交流コーナーの活用 ・121~122.渡良瀬遊水地大好き応援団の結成

■ V Resilient Promotion System 市民主体・協働事業の推進

個別方針	上段:個別施策 下段:現時点で想定される事業(暫定)
1 市民団体等の活動促進	<p>*担い手育成</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・95.周辺活動団体との話し合い、活動への参加誘導 ・99.案内・サービス・体験提供の組織の構築 ・101.指定管理者の活動内容の強化 ・102.NPO組織の立上げ ・103～104.民間事業者の参入推進 <p>【新たなアイデア】</p> <p>・2.新たな観光ガイドの育成</p>
2 共通プラットフォームの整備	<p>*(再掲)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・94.渡良瀬遊水地担当(臨時職員、有償ボランティア等)の常駐化 ・105.広域連携の推進 ・114.123.クラウドファンディング ・117～118.マイスター制度の設立 ・119.中核施設職員等の共通のユニフォーム等の作成

I 計画策定の前提条件・課題の整理

▶ 基本的な条件

- ① 游水地の環境保全
- ② 治水と歴史、自然環境保全に関する周知・啓発
- ③ 游水地を活用したアクティビティとの連携
- ④ 地域資源の活用

▶ 社会情勢の変化

- ① 余暇重視のライフスタイルの広がり
- ② 農業環境への関心の高まり
- ③ ウエルビーイング志向の高まり
- ④ 協働のまちづくり
- ⑤ 加須市として一体感のあるまちづくり
- ⑥ 治水・防災への関心の高まり
- ⑦ SDGsに関する取組の実施

▶ 計画策定に当たっての6つの課題

- 1 市民の渡良瀬遊水地に対する親近感の醸成
- 2 周辺施設等への制約条件・地理的特性を踏まえた取組の推進
- 3 豊富なアイデアに対する担い手不足の解消
- 4 柳生駅のポテンシャルの活用
- 5 共通性・ストーリー性の強化
- 6 他市町との連携及び差別化の推進

II 計画策定の3つの戦略

- 戦略1 「かぞわたらせ」の個性は“渡良瀬遊水地”の玄関口
- 戦略2 市民みんなが「かぞわたらせ」を感じられる存在に
- 戦略3 行政による担い手育成と市民協働



3つの戦略（まとめ）
市民とともに将来像を描き、実現していくための計画

III 計画の方針

▶ 基本理念

：ラムサール条約の理念である湿地の「保全・再生」「賢明な利用（ワיזユース）」「交流・学習」の推進の考え方を踏襲
※第1次計画における基本理念と同様

展開

▶ 基本コンセプト

渡良瀬遊水地の利活用における基本理念や、計画策定の戦略の内容等を踏まえた第2次計画の将来像

LOHAS Station かぞわたらせ

—“LOHAS Station かぞわたらせ”とは—
水、空、湿地、自然、生き物、農業、
スポーツ、健康づくり、生活、地域コミュニティ、
来訪者、周辺市町などが交わる渡良瀬遊水地
での活動の出発駅
市民をはじめ、より多くの人が利活用策に関わり、
交流する、共創の取組を推進

一口ゴイイメージ



反映

▶ 5つの基本方針

基本方針 I
渡良瀬遊水地を含む流域環境の保全

▶ 個別方針

- ① 游水地の保全
- ② オニバス自生地の保全
- ③ 農業用地の保全
- ④ 環境に関するコンテンツの充実

▶ 個別施策

- ① 游水地保全活動への支援・協力
- ② オニバス自生地保全活動への支援・協力
- ③ 農業用地の保全への支援・協力
- ④ 自然学習系コンテンツの実施促進
- ⑤ 農業系（ライスパーク）コンテンツの実施促進
- ⑥ 他市町との連携に関する施策

基本方針 II
地域資源を活用した健康づくりの推進

- ① スポーツ・健康づくり拠点の整備
- ② 地域資源を活用したアクティビティの充実
- ③ 周辺地域資源の魅力向上

- ① グラウンドの整備に関する施策
- ② 道の駅の機能強化に関する施策
- ③ 中央エントランスとの連携強化に関する施策
- ④ グラウンドの利用促進に関する施策
- ⑤ サイクリング系コンテンツに関する施策
- ⑥ 気球やウォータースポーツに関する施策
- ⑦ 民間主催のイベントの登録・認定制度
- ⑧ 三県境の活用に関する施策
- ⑨ 田園景観の活用に関する施策

基本方針 III
地域資源と連携した拠点整備と回遊性の向上

- ① 渡良瀬遊水地の利用拠点の整備
- ② 柳生駅の利用促進
- ③ 柳生駅を起点とする交通手段の確保
- ④ 地域資源間のアクセス性の向上
- ⑤ 共通プラットフォームの整備

- ① 道の駅の活用に関する施策
- ② グラウンドの活用に関する施策
- ③ 駅の機能強化に関する施策
- ④ グリーンスローモビリティの実証実験
- ⑤ 回遊性と誘導に関する施策
- ⑥ オリジナルサイトの作成
- ⑦ 統一口ゴの作成
- ⑧ イベントの登録制度

基本方針 IV
渡良瀬遊水地のある暮らしの提案

- ① 渡良瀬遊水地関連コンテンツの周知・啓発
- ② ライフスタイルの提案
- ③ 来訪者の受け入れ環境の整備
- ④ ファンのコミュニティ形成

- ① 治水学習系コンテンツの実施促進に関する施策
- ② 市プロモーションで渡良瀬遊水地の写真活用
- ③ 東武沿線で渡良瀬遊水地＆加須のプロモーションの実施
- ④ 趣味で渡良瀬遊水地を訪れるライフスタイルの発信
- ⑤ 地産地消の推進
- ⑥ 地域の人の理解促進に向けたイベントや施策
- ⑦ 市報等での特集
- ⑧ 交流の場づくり

基本方針 V
市民主体・協働事業の推進

- ① 市民団体等の活動促進
- ② 共通プラットフォームの整備

- ① 担い手育成
- ② (再掲: III-⑤と同様)

▶ 市民とともに渡良瀬遊水地の立地条件や特性を踏まえた利活用の共通のイメージ、将来像を描き共有する。
▶ 将来像の実現に向けた共創の取組が、より多くの担い手により今後も継続的かつ活発に行われていくよう、誰にも身近で分かりやすく、親しみや興味を感じてもらえる計画づくりを目指す。

